

Secure Terminal

ホスト・エミュレーター

FALCON for APTi

ユーザース・ガイド

Version 2.1.8

一般的な注意

1. 本書の内容の一部または全部の無断転載・無断複写を禁止します。
2. 本書の内容は予告無しに変更することがあります。
3. 運用した結果の影響につきましては、本書の内容に関わらず、責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また、本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権の諸問題については、当社は一切その責任を負うことはできません。
5. 製品内部の改造が行われた場合、当社は一切責任を負うことはできません。

商標について

本文中、以下は各社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Internet Explorerは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

IBM、S/390、AS/400は、米国 IBM Corporationの商標または登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品/役務の名称は、それぞれ各社が保有する商号、登録商標または出願中の商標です。

第 2.1.8 版 2021 年 6 月



このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。
本ソフトウェア、およびマニュアルの一部、または全部を無断で複製することはできません。
FALCON for APTi は、(株)インターコム of 著作物です。

© JBアドバンス・テクノロジー株式会社 2006, 2021

はじめに

FALCON for APTiはIBMホストコンピューターS/390環境およびAS/400環境で動作するホスト・エミュレーターです。

本書にはご使用いただくときの設定や制限事項等重要な情報が含まれています。ご使用になる前に必ずご一読ください。

本書が適用される機種は以下の通りです。

- ・ SecureTerminal T311EM (T312EM/T313EM/T322EM/T323EM を含む)
- ・ SecureTerminal T511EM
- ・ SecureTerminal T711EM
- ・ SecureTerminal Mobile Note T911EM (T911EM-01 を含む)
- ・ SecureTerminal Mobile Note T1023EM
- ・ SecureTerminal T3133EM
- ・ SecureTemrinal T6133EM
- ・ SecureTemrinal T6144EM
- ・ SecureTemrinal T6154EM
- ・ SecureTerminal T8175EM
- ・ SecureTerminal T8286EM
- ・

目次

1章.ご使用になる前に.....	2
2章.初めてセッションを構成する.....	3
3章.セッションを追加する.....	8
4章.カスタマイズ.....	9
4.1 キーボードカスタマイズ.....	9
4.1.1 キーボードカスタマイズ操作の例 その1.....	9
4.1.2 キーボードカスタマイズ操作の例 その2.....	10
4.2 ファンクションバーカスタマイズ.....	11
4.2.1 ファンクションバーカスタマイズの設定例 その1.....	11
4.2.2 ファンクションバーカスタマイズの設定例 その2.....	12
4.3 ツールバーカスタマイズ.....	13
4.3.1 ツールバーカスタマイズの設定例.....	13
4.4 ホットスポットカスタマイズ.....	14
4.4.1 ホットスポットカスタマイズ その1.....	14
4.4.2 ホットスポットカスタマイズ その2.....	15
5章.マクロ機能.....	16
5.1 マクロの記録.....	16
5.2 マクロの再生.....	17
5.3 マクロファイルを編集するには.....	17
5.4 マクロコマンド.....	18
6章.FALCONフレームのメニューについて.....	26
7章.FALCONフレームのツールバーについて.....	27
8章.プロパティについて.....	29
8.1 3270 プロダクト.....	29
8.2 5250 プロダクト.....	33
8.3 プロダクト共通.....	37
9章.設定ファイルについて.....	38
9.1 SETUP.INF.....	38
9.2 FALCUST.INF.....	41
10章.ユーザーへの展開.....	42
11章.トレースの採取方法.....	43
APPENDIX 1 (キーマップ一覧).....	46
5250.....	46
3270.....	50

1 章.ご使用になる前に

AS/400 環境では、
TN5250E を使用したディスプレイセッションとプリンターセッションをサポートしています。

S/390 環境では、
TN3270E を使用したディスプレイセッションとプリンターセッションをサポートしています。


動作環境
JBAT がプレインストールして提供するハードウェア。

ご注意
FALCON for APTi はアンインストールしたり、プログラムフォルダーを変更したりしないでください。
正常に動作しなくなる場合や、バージョンアップ等の適用ができなくなる場合があります。

2章.初めてセッションを構成する

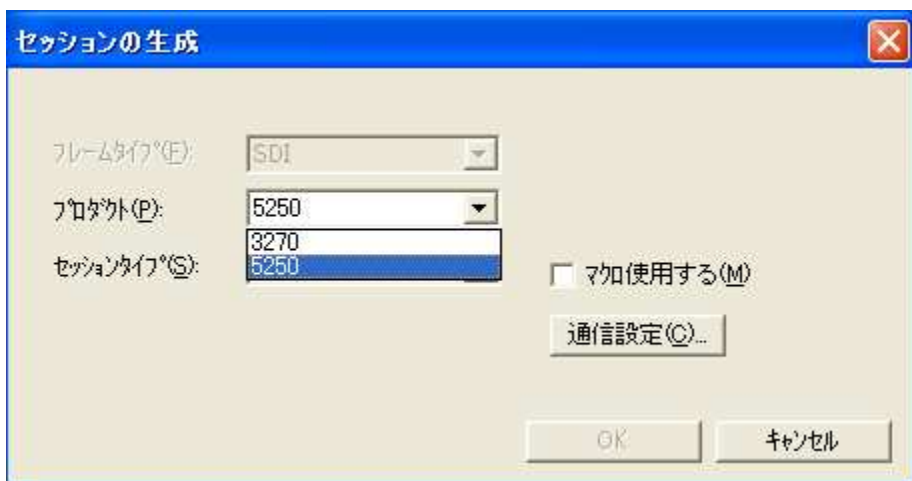
手順

- 1) SecureTerminal に Administrator でログインしてください。
※XPE、WES2009 版と WES7、Win10 版では設定した内容を DOM へ保存する設定方法が異なります。
DOM へ保存するための設定方法は、製品に同梱されているクイックスタートガイド、または SecureTerminal (WES7 版、Win10 版) ユーザーズ・ガイドを参照ください。

- 2) デスクトップにあるアイコン  をクリックしてください。セッションの生成画面が立ち上がります。



- 3) プロダクトとセッションタイプを選択し『通信設定(C)..』ボタンをクリックしてください。プロダクトは 3270(TN3270E)/5250(TN5250E)が選択可能です。



セッションタイプは CRT(Display session)/PRT(Printer session)が選択可能です。



- 4) 「通信設定(C)..」ボタンをクリックすると「通信設定画面」が表示されますので「詳細設定(L)..」ボタンをクリックしセッションのパラメータを設定してください。



5) セッションパラメータの設定

プロダクト : 3270/セッションタイプ : CRT

以下必須項目です。

接続IPアドレス	TN3270 サーバー (ホスト) の IP アドレス
ポート番号	TN3270 サーバー (ホスト) のポート番号
LU 名	無名 LU の場合はブランクでも可

その他の項目は必要に応じ設定してください。

プロダクト : 3270/セッションタイプ : PRT

以下必須項目です。

接続IPアドレス	TN3270 サーバー (ホスト) の IP アドレス
ポート番号	TN3270 サーバー (ホスト) のポート番号
LU 名	無名 LU の場合はブランクでも可

その他の項目は必要に応じ設定してください。

プロダクト : 5250/セッションタイプ : CRT

以下必須項目です。

接続IPアドレス	AS/400 (ホスト) の IP アドレス
ポート番号	AS/400 (ホスト) のポート番号
デバイス名	無名 LU の場合はブランクでも可

その他の項目は必要に応じ設定してください。

プロダクト : 5250/セッションタイプ : PRT

以下必須項目です。

接続IPアドレス	AS/400 (ホスト) の IP アドレス
ポート番号	AS/400 (ホスト) のポート番号
デバイス名	無名 LU の場合はブランクでも可

その他の項目は必要に応じ設定してください。

- 6) セッションパラメータの設定が終了したら
各画面で「適用」ボタンをクリックし、「OK」ボタンをクリックします。
通信設定画面に戻りますので「OK」ボタンをクリックします。
「セッションの生成」画面に戻りますので「OK」ボタンをクリックします。
「セッションを有効にする場合は FALCON を再起動してください」画面が出ますので「OK」
ボタンをクリックし、

デスクトップにあるアイコン  をクリックしてください。

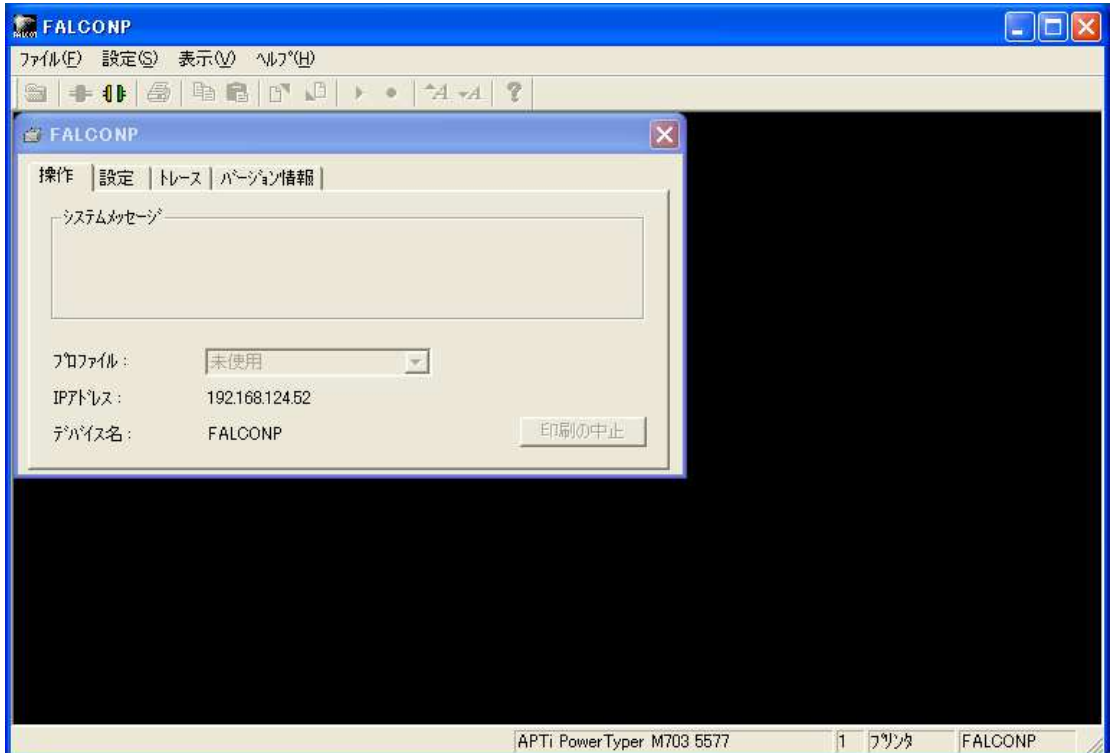
先ほど構成したセッション画面が表示されます。

3章.セッションを追加する

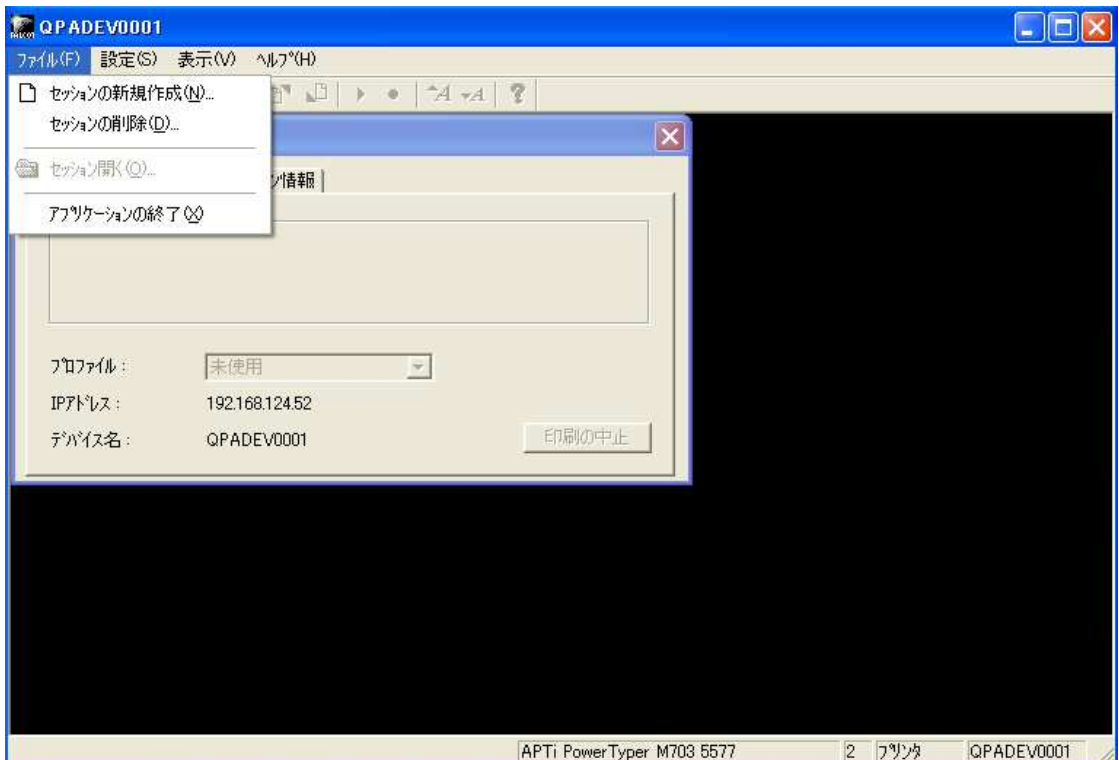
手順

- 1) 構成した画面からセッションの追加をおこないます。FALCON for APTi を起動し、セッション画面を表示してください。

例) 5250 プリンターセッション



- 2) ファイルメニューより「セッションの新規作成」を選択してください。



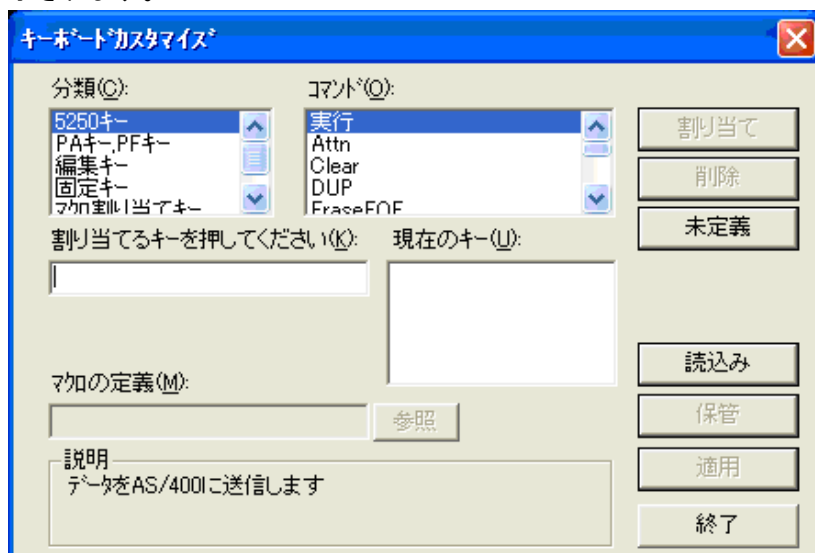
「セッションの生成画面」が表示されます。以降の手順は前章の「はじめてセッションを構成する」と同じです。

4章.カスタマイズ

セッションタイプ CRT のセッション画面上で右クリックをするとポップアップメニューが表示されます。カスタマイズメニューは4種類あり初期値では編集できません。これら編集する場合はプロパティの追加が必要です。9章の「設定ファイルについて」中の「9.1 Setup.Inf」を参照いただき、プロパティ設定を事前におこなってください。

4.1 キーボードカスタマイズ

ポップアップメニュー「カスタマイズ」の「キーボード」を選択すると、以下のウィンドウが表示されます。



分類	カスタマイズ対象の機能を選択します。
コマンド	カスタマイズ対象が通常のキーの場合、各キー機能を選択します。
割り当てるキーを押してください	ここにカーソルをセットして割り当てるキーを入力します。
現在のキー	現在割り当てられているキーが表示されます。
[参照] ボタン	カスタマイズ対象がマクロ割り当てキーの場合、マクロファイルを参照します。
説明	選択したキー機能の動作が表示されます。
[読み込み] ボタン	既存のキーボードファイルを読み込みます。
[適用] ボタン	作成したカスタマイズ内容をファイルに保管し、変更内容を現在の画面に適用します。
[終了] ボタン	カスタマイズを終了します。

キーボードに割り当てられている設定は、ポップアップメニューの「キーボードヘルプ」をご参照ください。

4.1.1 キーボードカスタマイズ操作の例 その1

【操作】

1. 「分類」リストから「PA キー,PF キー」を選択します。
2. 「コマンド」リストから「PA1」を選択します。
3. 「割り当てるキーを押してください」のテキストフィールドで、クリックしてカーソルをセットします。
4. キーボードの [Ctrl] キーを押したまま、[F1] キーを押します。
5. [割り当て] ボタンをクリックします。
6. [現在のキー] に "Ctrl+F1" と表示されます。

7. [適用]ボタンをクリックしてファイルに保管します。
8. [終了] ボタンをクリックしてカスタマイズを終了します。

【メモ】

ホスト画面で [Ctrl] + [F1] を入力すると、"PA1" の機能が実行されます。

【注意】

入力したキーの組み合わせが、すでにほかのコマンドやマクロに割り当てられている場合、現在の割り当てが表示されます。

その状態で割り当てをおこなうと、以前の割り当てが解除され、新しい割り当てが有効になります。

1つのコマンドやマクロに対して複数のキーを割り当てることができます。

4.1.2 キーボードカスタマイズ操作の例 その2

【操作】

1. 「分類」リストから「マクロ割り当てキー」を選択します。
2. [参照]ボタンをクリックして「macro.mcr」を選択します。
3. 「割り当てるキーを押してください」のテキストフィールドで、クリックしてカーソルをセットします。
4. キーボードの [Ctrl] キーを押したまま、[F2] キーを押します。
5. [割り当て]ボタンをクリックします。
6. 「現在のキー」に "Ctrl+F2" と表示されます。
7. [適用]ボタンをクリックしてファイルに保管します。
8. [終了]ボタンをクリックしてカスタマイズを終了します。

【メモ】

ホスト画面で [Ctrl] + [F2] を入力すると、"macro.mcr" ファイルでマクロが再生されます。

【注意】

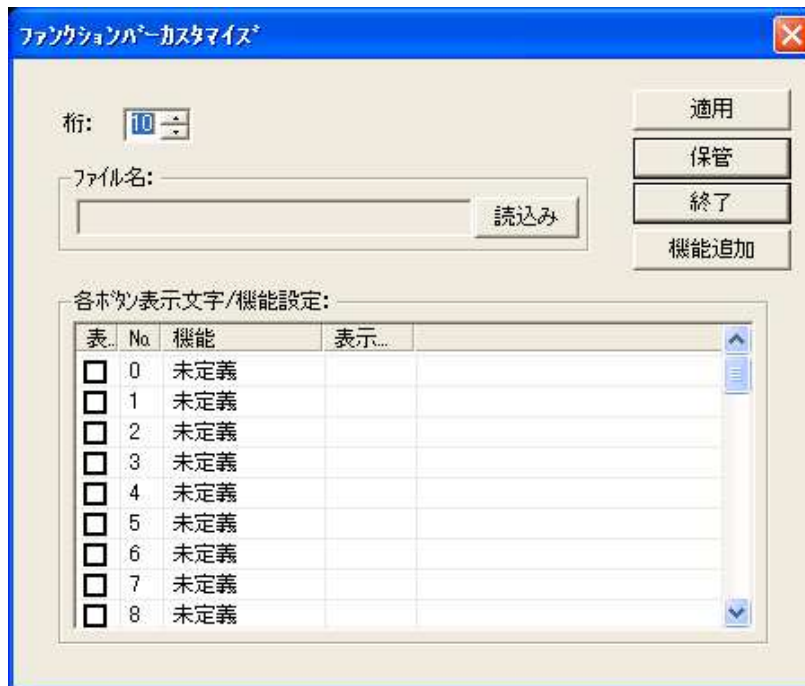
入力したキーの組み合わせが、すでにほかのコマンドやマクロに割り当てられている場合、現在の割り当てが表示されます。

その状態で割り当てをおこなうと、以前の割り当てが解除され、新しい割り当てが有効になります。

1つのコマンドやマクロに対して複数のキーを割り当てることができます。

4.2 ファンクションバーカスタマイズ

ポップアップメニュー「カスタマイズ」の「ファンクションバー」を選択すると以下のウィンドウが表示されます。



ファンクションバーの表示位	表示位置を、「非表示」、「画面の上」、「画面の下」のいずれかから選択します。(IE フレームのみ対応)
行	画面に表示されるファンクションボタンの数を調整できます。
[読み込み]ボタン	既存のファンクションバーファイルを読み込みます。
[適用]ボタン	作成したカスタマイズ内容をファイルに保管し、変更内容を現在の画面に適用します。
[機能追加]ボタン	ファンクションバーのボタンに新しい機能を割り当てます。
各ボタン表示文字/機能設定	現在のカスタマイズの内容が表示されます
[終了]ボタン	カスタマイズを終了します。

* ファンクションバーのボタンにはあらかじめ番号が割り振られています。
10以上の番号はあらかじめキーが割り当てられ、表示されるようになっています。この割り当ては変更することができます。
ファンクションバーに機能を追加するには、[機能追加] ボタンをクリックして [機能追加] ダイアログを表示します。

4.2.1 ファンクションバーカスタマイズの設定例 その1

【操作】

1. 「各ボタン表示文字/機能設定」リストの No.0 を選択します。次に、[機能追加] ボタンをクリックして [機能追加] ダイアログを表示します。
2. 「機能参照」で「SYSREQ」を選択し、[機能追加]ボタンをクリックします。
3. 「機能」に「[SYSREQ]」と表示されます。
4. 「表示文字」に「SysReq キー」と入力します。

5. [確定] ボタンをクリックしたあと、[終了] ボタン をクリックして [機能追加] ダイアログを閉じます。
6. No.0 の「表示の有無」 をチェックします。
7. [適用]ボタンをクリックしてファイルに保管します。
8. [終了] ボタンをクリックしてカスタマイズを終了します。

ファンクションバーの 1 番目に "SysReq キー" というボタンが追加されます。
このボタンを押すと「SYSREQ」キーが実行されます。

【注 意】

「機能」には複数の機能を追加することができます。
各番号に機能を割り当てても「表示の有無」をチェックしないと表示されません。

4.2.2 ファンクションバーカスタマイズの設定例 その 2

【操 作】

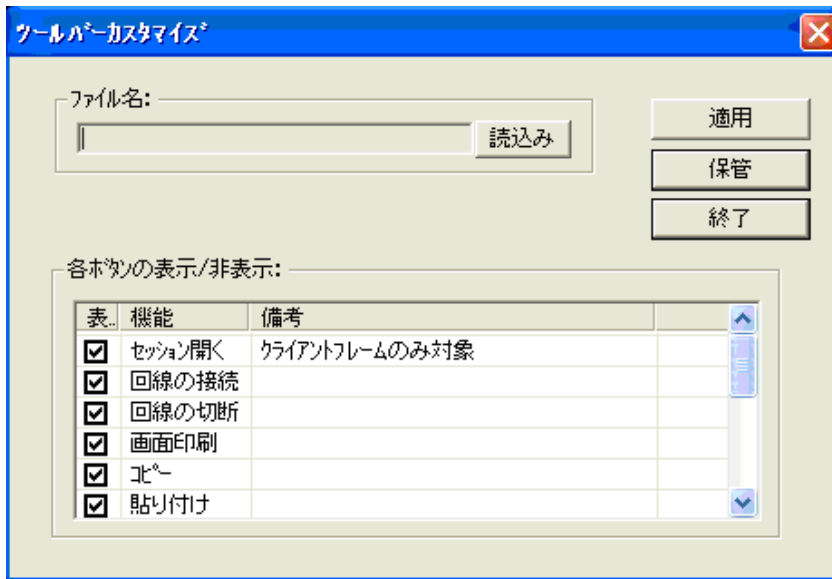
1. 「各ボタン表示文字/機能設定」リストの No.0 を選択します。次に、[機能追加]ボタンをクリックして [機能追加] ダイアログを表示します。
2. 「マクロ参照」で既存のマクロファイル「c:\macro.mcr」を選択します。
3. 「機能」に "[MACRO:c:\macro.mcr]" と表示されます。
4. 「表示文字」に "macro,mcr の実行" と入力します。
5. [確定]ボタンをクリックしたあと、[終了]ボタンをクリックして [機能追加] ダイアログを閉じます。
6. No.1 の「表示の有無」 をチェックします。
7. [適用]ボタンをクリックしてファイルに保管します。
8. [終了]ボタンをクリックしてカスタマイズを終了します。
9. ファンクションバーの 2 番目に "macro,mcr の実行" というボタンが追加されます。
10. このボタンを押すと「macro,mcr」ファイルでマクロが再生されます。

【注 意】

「機能」には複数の機能を追加することができます。
各番号に機能を割り当てても「表示の有無」をチェックしないと表示されません。

4.3 ツールバーカスタマイズ

ポップアップメニュー「カスタマイズ」の「ツールバー」を選択すると以下のウィンドウが表示されます。



[読み込み]ボタン	既存のツールバーファイルを読み込みます。
各ボタンの表示/非表示	現在のカスタマイズ状態が表示されます。
[適用]ボタン	作成したカスタマイズ内容をファイルに保管し、変更内容を現在の画面に適用します。
[終了]ボタン	カスタマイズを終了します。

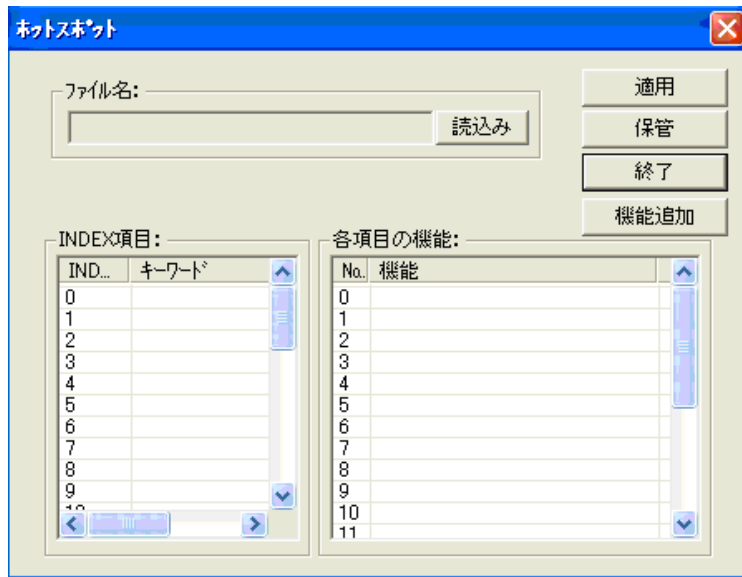
4.3.1 ツールバーカスタマイズの設定例

【操作】

1. 「ツールバーの表示位置」を「画面の下」にセットします。
2. 「ツールバーボタンの表示方法」を「ビットマップのみ表示」にセットします。
3. 「表示の有無」で「マクロの再生」、「マクロの記録」、「マクロの終了」のチェックを外します。
4. [適用]ボタンをクリックしてファイルに保管します。
5. [終了]ボタンをクリックしてカスタマイズを終了します。
6. ツールバーが画面の下に表示され、ツールバーの外観はビットマップのみの表示になります。
7. 同時に、「マクロの再生」、「マクロの記録」、「マクロの終了」の3つの機能が表示されなくなります。

4.4 ホットスポットカスタマイズ

ポップアップメニュー「カスタマイズ」の「ホットスポット」を選択すると以下のウィンドウが表示されます。

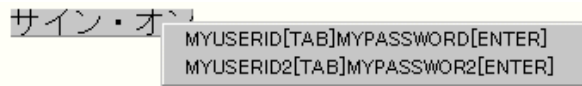


INDEX 項目	現在のホットスポットの一覧が表示されます。
各項目の機能	各ホットスポットに割り当てた機能の一覧が表示されます。
[機能追加]ボタン	選択した番号にホットスポットを割り当てます。
[読み込み]ボタン	既存のホットスポットファイルを読み込みます。
[適用]ボタン	作成したカスタマイズ内容をファイルに保管し、変更内容を現在の画面に適用します。
[終了]ボタン	カスタマイズを終了します。

4.4.1 ホットスポットカスタマイズ その1

【操作】

- 「INDEX 項目」で INDEX 0 番を選択します。「各項目の機能」に "[INDEX0]" と表示されます。
- 「各項目の機能」の No.0 を選択します。
- [機能追加]ボタンをダブルクリックします。[ホットスポット機能追加]ダイアログが表示されます。
- 「キーワード」に "サイン・オン" と入力します。
- 「機能」に "MYUSERID[TAB]MYPASSWORD[ENTER]" と入力します。
- [確定]ボタンをクリックし、次に [終了] ボタンをクリックして元の画面に戻ります。
- 「INDEX 項目」の 0 番目にキーワード "サイン・オン" が表示されます。
また、「各項目の機能」の No.0 に "MYUSERID[TAB]MYPASSWORD[ENTER]" が表示されます。
同様に「各項目の機能」の No.1 を選択します。
次に、[ホットスポット機能追加] ダイアログで「機能」に
「MYUSERID2[TAB]MYPASSWOR2[ENTER]」と入力します。
- [確定]ボタンをクリックし、次に [終了] ボタンをクリックして元の画面に戻ります。
- 「各項目の機能」の No.1 に「MYUSERID2[TAB]MYPASSWOR2[ENTER]」が表示されます。
- [適用]ボタンをクリックしてファイルに保管します。
- [終了]ボタンをクリックしてカスタマイズを終了します。
- ホスト画面上の「サイン・オン」という文字列が強調表示されます。
- 「サイン・オン」文字列上でマウスの右クリックをすると、設定された機能がメニューに表示されます。

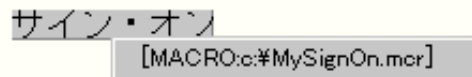


メニュー項目をクリックすると、指定された機能を実行します。

4.4.2 ホットスポットカスタマイズ その2

【操 作】

1. 「INDEX 項目」で INDEX 0 番を選択します。「各項目の機能」に "[INDEX0]" と表示されます。
2. 「各項目の機能」の No.0 を選択します。
3. [機能追加]ボタンをクリックします。[ホットスポット機能追加]ダイアログが表示されます。
4. 「キーワード」に "サイン・オン" と入力します。
5. [マクロ参照]ボタンで「MySignOn.mcr」を選択します。「機能」に "[MACRO:c:¥MySignOn.mcr]" と表示されます。
6. [確定]ボタンをクリックし、次に [終了] ボタンをクリックして元の画面に戻ります。
7. 「INDEX 項目」の 0 番目にキーワード "サイン・オン" が表示されます。
また、「各項目の機能」の No.0 に "[MACRO:c:¥MySignOn.mcr]" が表示されます。
8. [適用]ボタンをクリックしてファイルに保管します。
9. [終了]ボタンをクリックしてカスタマイズを終了します。



ホスト画面上の「サイン・オン」という文字列が強調表示されます。
「サイン・オン」文字列上でマウスの右クリックをすると、設定された機能がメニューに表示されます。
メニュー項目をクリックすると、指定されたマクロを実行します。

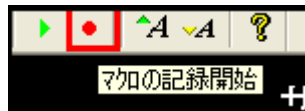
5章.マクロ機能

マクロは一連のコマンドとパラメータで構成され、保存可能なファイルで提供されます。マクロの記録をおこなう場合は必ずファイル書き込み可能な状態（Administrator 権限）でおこなってください。マクロ機能を使用する場合には、プロパティの追加が必要です。2章の「セッションの生成」画面でマクロ機能を有効にさせていただくか、または9章の「設定ファイルについて」中の「9.1 Setup.Inf」を参照いただき、プロパティ設定を事前におこなってください。

5.1 マクロの記録

記録開始から終了までのキー入力操作を、自動的にマクロファイルとして記録しておきます。マクロファイルを編集することなく、マクロの実行が可能です。

「マクロの記録」をクリックすると、下記の「マクロの記録開始」が表示され、さらに記録するマクロファイルの名前を指定するダイアログが表示されます。



ダイアログ画面では拡張子を「.MCR」としてファイル名を入力、または選択してください。

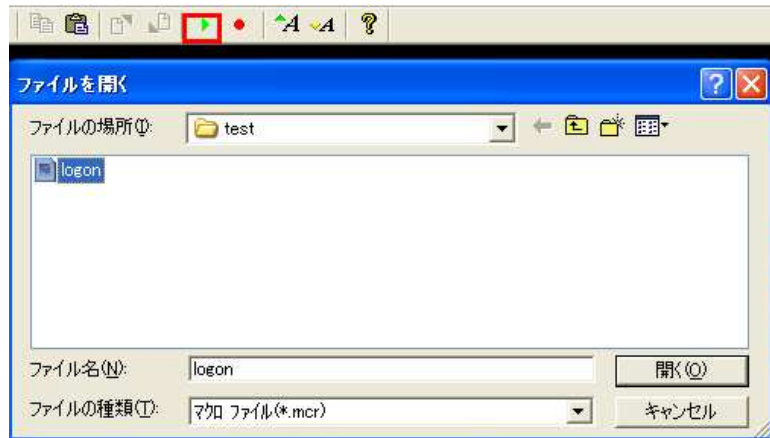


マクロの記録が開始されると、5250 のツールバーにある「マクロの記録」が、「マクロの終了」（下記の表示）に変わります。

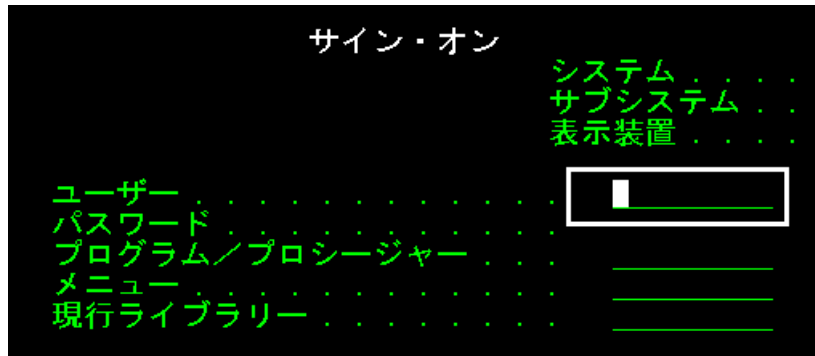


5.2 マクロの再生

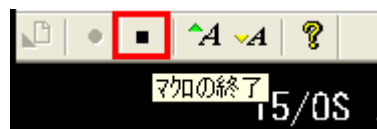
マクロファイルを読み込み、実行します。



マクロファイルは、ウィンドウ上のカーソル位置から実行されます。



マクロが再生されると、マクロファイルが実行されているウィンドウのツールバーにある「マクロの再生」が、「マクロの終了」（下記の表示）に変わります。



5.3 マクロファイルを編集するには

最初に「マクロの記録」機能で、元となるマクロファイルを作成した後、メモ帳などのテキストエディタで必要な修正をしてください。

5.4 マクロコマンド

マクロコマンド	意味
¥CHARA	スクリーンバッファの中の文字列を検索
¥CHECK	ディスプレイのステータスをチェック
¥COPY	5250 スクリーンバッファの中の文字列を保管
¥CURSOR	カーソルを指定アドレスの位置に移動
¥EXIT	マクロの実行終了
¥FIND	スクリーンバッファの中の文字列を検索
¥GOTO	指定されたラベルへ無条件にジャンプ
¥IF	スクリーンバッファの中の文字列を比較
¥INPUT	送信系のキー入力を保留
¥KEY	キー入力をシミュレーション
¥LOCK	キー入力を制御
¥MESSAGE	任意のメッセージボックスを出力
¥OUTPUT	¥INPUT で保留している送信キーを実行
¥PASTE	スクリーンバッファに ¥COPY で保管した文字列を入力
¥WAIT	プログラムを一定時間ウェイト
¥WINEXEC	アプリケーションの起動
ラベル名 :	ラベル名を指定

コマンドの詳細は次ページ以降を参照してください。

◆ ¥CHARA ◆

【機能】	<p>スクリーンバッファの中の文字列を検索します。 ¥CHARA コマンドは、スクリーンバッファの指定されたアドレスの内容と照合文字列を比較して、一致したらこのコマンドを終了します。 タイマオプションの指定がないときは、照合文字列が一致するまでこのコマンドをループします。 タイムアウト時は、エラーメッセージを表示してマクロの実行を中止します。 照合文字列の一致、不一致の両方をプログラムしたいときは、「¥IF」を使ってください。 なお、アドレスと照合文字列の間には、必ず 1 個のスペースを置いてください。</p>
【書式】	<p>¥CHARA Tssss %アドレス 照合文字列</p> <p>Tssss = タイマオプション (T0001~T6540)</p> <p>% = A : 絶対アドレス(「行」と「桁」を「,」で区切る) R : 相対アドレス</p>
【使用例】	<p>¥CHARA T10 A15,03 ABCDEFG 絶対アドレス「15,03」で「ABCDEFGF」という文字列を検索します。</p>

◆ ¥CHECK ◆

【機能】	<p>ディスプレイのステータスをチェックします。 ステータス行の結合状態シンボルを読み込み、照合コードと一致するまで指定時間ウェイトします。 タイマオプションの指定がないときは、照合コードと一致するまでこのコマンドをループします。 タイマ値は、1~6540 秒の範囲です。数字の前には、「T」を付けてください。 指定時間内に照合コードが一致できなかった場合は、エラーメッセージを表示して、マクロの実行を中止します。</p>
【書式】	<p>¥CHECK Tssss %</p> <p>Tssss タイムオプション (T0001~T6540)</p> <p>=</p> <p>% = 照合コード (0~3)</p> <p>0 : ステータス行の結合状態シンボルなし キー入力のみ可能な状態</p> <p>1 : ステータス行の結合状態シンボル「wB■」 ホストの適用業務プログラムと結合中</p> <p>2 : ステータス行の結合状態シンボル「wB[Ⓚ]」 画面がホストの制御プログラムと結合中</p> <p>3 : ステータス行の結合状態シンボル「wB?」 ホストの適用業務プログラム結合中ではなく、また制御プログラムとも結合していない状態</p>
【使用例】	<p>¥CHECK T10 1 ホストの適用業務プログラムと結合中で、なおかつキー入力可能な状態になるまで 10 秒間待ちます。</p>
【注意】	<p>照合コードの「1~3」は「0」の機能を兼ねていますので、通常は「1~3」を使用してください。</p>

◆ ¥COPY ◆

【機能】	スクリーンバッファの中の文字列を検索します。 スクリーンバッファの中の文字列を変数に保管します。 指定されたスクリーン位置の指定された文字数分の文字列を、最大 10 個まで保管できます。 保管された文字列は、¥PASTE 機能でスクリーンバッファに入力が可能です。
【書式】	¥COPY n %アドレス 文字数 n = コピーインデックス (0~9) % = A : 絶対アドレス (「行」と「桁」を「,」で区切る) R : 相対アドレス 文字数 = 半角文字単位で最大 80 文字まで
【使用例】	¥COPY 0 A15,03 6 絶対アドレス「15,03」から 6 文字を、インデックス 0 に保管します。

◆ ¥CURSOR ◆

【機能】	カーソルを指定アドレスの位置に移動します。
【書式】	¥CURSOR %アドレス % = A : 絶対アドレス (「行」と「桁」を「,」で区切る) R : 相対アドレス
【使用例】	¥CURSOR A15,03 絶対アドレス「15,03」にカーソルを移動します。

◆ ¥EXIT ◆

【機能】	マクロの実行を中止させます。
【書式】	¥EXIT % % なし : 通信を継続させたまま、表示中の画面を維持します。 = 2 : 通信を停止し、マクロを終了した後 プログラムも終了します。確認メッセージを表示後、プログラムは Windows に戻ります。 3 : 通信を停止し、マクロを終了した後 プログラムも終了します。ただし確認メッセージを表示しないで、プログラムは Windows に戻ります。
【使用例】	¥EXIT 3 確認メッセージを表示しないで、プログラムを終了します。

◆ ¥FIND ◆

【機能】	スクリーンバッファの中の文字列を検索します。 「¥FIND」は検索するアドレスを限定せず、ディスプレイのどこの位置でも文字列と一致すれば処理を終了します。
【書式】	¥FIND Tssss 照合文字列 Tssss = タイマオプション(T0001~T6540)
【使用例】	¥FIND T10 ABCDEFG 表示されている ディスプレイの中から 10 秒間、「ABCDEFGF」という文字列を検索します。
【注意】	照合文字列が「T」ではじまる場合は、タイマオプションを省略しないでください。

◆ ¥GOTO ◆

【機能】	プログラムの実行を指定されたラベルへ無条件に移動します。
【書式】	¥GOTO ラベル
【使用例】	¥GOTO ABCD 「ABCD」というラベルにプログラムの実行を移動します。

◆ ¥IF ◆

【機能】	スクリーンバッファの中の文字列を比較します。 「¥CHARA」と同様に、スクリーンバッファの指定されたアドレスの内容と照合文字列を比較します。 タイマオプションの指定がないときは、「[=](一致)」、または「[!]= (不一致)」の条件で、プログラムの制御を指定されたラベルに分岐させます。 指定時間内に照合文字列が一致、または不一致の条件にあてはまらないときは、次のコマンドを実行します。
【書式】	¥IF Tssss %アドレス 照合文字列\$ラベル Tssss = タイマオプション(T0001~T6540) % = A : 絶対アドレス (「行」と「桁」を「,」で区切る) R : 相対アドレス \$ = [=]: 一致 [!]=: 不一致
【使用例】	¥IF R241 READY[!]=QUIT 相対アドレス「241」に「READY」という文字列があれば次のコマンドに進み、「READY」がなければラベルの「QUIT」に移動します。

◆ ¥INPUT ◆

【機能】	送信系のキーが入力されるまで待機します。 文字や編集キーなどはそのまま、スクリーンに反映されますが、送信系のキーは、一旦保留され、¥OUTPUTの実行によってスクリーンに反映されます。
【書式】	¥INPUT
【使用例】	¥INPUT ¥COPY 0 A15,03 6 ¥COPY 1 A16,03 6 ¥OUTPUT ... オペレータが絶対アドレス「15,03」および「16,03」に入力した文字列を、COPY コマンドで保管した後、送信キーを実行しています。 これにより、タイミングに影響されず、確実にオペレータ入力を、保管しておくことができます。

◆ ¥KEY ◆

【機能】	ウィンドウでのキー入力をシミュレーションします。 「¥KEY」以降に指定された文字列、または キーコードを、キーボードから入力したときと同じように スクリーンバッファに入力します。 文字列には、通常の英数カナ、記号、全角文字 (漢字) が指定できます。
【書式】	¥KEY 文字列 (または) キーコード
【使用例】	¥KEY ABCDEFG[ET] キーボードから「ABCDEFGFG」を入力し、続いて [Enter] キーを押したときと同じ動作です。

【5250 キーコードの表記】

5250 キーコードは、キー名称の前に「[」文字をつけて指定します。

キーコード	標準型	短縮形	キーコード	標準型	短縮形
Attn	[ATTN	[AT	キャラクタ後退	[CHRB	[CB
Clear	[CLEAR	[CL	キャラクタ前進	[CHRF	[CF
Dup	[DUP	[DP	高速カーソル ↑	[UP3	[3U
実行	[ENTER	[ET	高速カーソル ↓	[DOWN3	[3D
取消	[RESET	[RE	高速カーソル →	[RIGHT3	[3R
EraseEOF	[ERASEEOF	[EE	高速カーソル ←	[LEFT3	[3L
ErInp	[ERASEIN	[EI	Home	[HOME	[HM
FieldExit	[FLDEXIT	[FE	改行	[NEWLINE	[NL
Field+	[FLD+	[F+	Tab	[TABF	[FB
Field-	[FLD-	[F-	TabWord	[TABFW	[FW
Help	[HELP	[HL	↑	[UP	[UC
ホスト印刷	[HSTPRT	[HP	↓	[DOWN	[DC
SO/SI 表示	[SOSIDSP	[SD	→	[RIGHT	[RC
SO/SI 挿入	[SOSIIN	[SI	←	[LEFT	[LC
SpaceEOF	[SPEOF	[SE	カラーモード切替	[COLORCHG	[CO
PageDown	[PGDOWN	[PG	カーソル切替	[CUSORCHG	[CU
PageUp	[PGUP	[PU	文字モードの切替	[MOJICHG	[MC
PA 1、PA 2、PA 3	[PA1、[PA2、[PA3	[P1、[P2、[P3	ローカル印刷	[PRINT	[PR
PF 1～PF 24	[PF1～[PF24	[01～[024	編集-複写	[COPY	[CP
RollDown	[RLDOWN	[RD	編集-貼付	[PASTE	[PS
RollUp	[RLUP	[RU	編集-切取	[CUT	[CU
SysRq	[SYSREQ	[SR	範囲指定 →	[EDRIGHT	[ER
Test	[TEST	[TS	範囲指定 ←	[EDLEFT	[EL
FM	[FM	[FM	範囲指定 ↑	[EDUP	[EU
挿入	[INSERT	[IN	範囲指定 ↓	[EDDOWN	[ED
削除	[DELETE	[DE	範囲移動 →	[EDMRIGHT	[MR
BackSpace	[BS	[BS	範囲移動 ←	[EDMLEFT	[ML
BackTab	[TABB	[BT	範囲移動 ↑	[EDMUP	[MU
BackTabWord	[TABBW	[BW	範囲移動 ↓	[EDMDOWN	[MD

【3270 キーコードの表記】

3270 キーコードは、キー名称の前に「[」文字をつけて指定します。

キーコード	標準型	短縮形	キーコード	標準型	短縮形
ENTER	[ENTER	[ET	ERASE INPUT	[ERASEIN	[EI
CLEAR	[CLEAR	[CL	ERASE EOF	[ERASEEO	[EE
PA1、PA2、PA3	[PA1、[PA2、[PA3	[P1、[P2、[P3	改行	[NEWLINE	[NL
PF1~PF24	[PF1~[PF24	[01~[24	TAB、BACK TAB	[TABF、[TABB	[TB、[BT
SYSREQ	[SYSREQ	[SR	DUP、FM	[DUP、[FM	[DP、[FM
ATTN	[ATTN	[AT	CURSOR SELECT	[CURSEL	[CS
↑、↓	[UP、[DOWN	[UC、[DC	PRINT SELECT	[PRINT	[PR
←、→	[LEFT、[RIGHT	[LC、[RC	DEVICE CANCEL	[DEVICE	[DV
HOME	[HOME	[HM	後退	[BS	[BS
挿入	[INSERT	[IN	削除	[DELETE	[DE
RESET	[RESET	[RE			

◆ ¥LOCK ◆

【機能】	ディスプレイへのキー入力を制御します。 マクロ実行中に、誤ってキーボードから入力しないように入力禁止にしたり、その解除をします。 一般的にマクロファイルの1行目に入力禁止の要求をおこない、「¥EXIT」の直前で入力禁止の解除をおこないます。 ただし、入力禁止の状態でもマクロの実行を終了したり、マクロの中断をおこなっても入力禁止は解除されません。
【書式】	¥LOCK % % 制御コード = 0 : キー入力禁止を解除します。 1 : キー入力を禁止します。
【使用例】	¥LOCK 0 キー入力禁止を解除します。

◆ ¥MESSAGE ◆

【機能】	任意の文字列を、ディスプレイにメッセージボックスとして表示します。 文字列には、英数カナ、記号、全角漢字が使えます。 文字数は、128文字まで指定できます。 文字列を改行させる場合は、「¥n」を改行させたいところに入力してください。
【書式】	¥MESSAGE 文字列
【使用例】	¥MESSAGE ABCDEFG 「ABCDEFG」という文字列をメッセージボックスとして出力します。

◆ ¥OUTPUT ◆

【機能】	¥INPUT によって保留している送信キーがあれば、それを実行します。
【書式】	¥OUTPUT
【使用例】	¥MESSAGE ABCDEFG ¥INPUT の使用例を参照してください。

◆ ¥PASTE ◆

【機能】	スクリーンバッファに ¥COPY で変数に保管した文字列を入力します。 ¥COPY で保管したインデックスを指定してください。
【書式】	¥PASTE n %アドレス [文字数] n = コピーインデックス(0~9) % = A : 絶対アドレス (「行」と「桁」を「,」で区切る) R : 相対アドレス 文字数 = 必要により スクリーンに入力できる最大文字数を指定します。
【使用例】	¥PASTE 0 A15,03 絶対アドレス 「15,03」 から、インデックス 0 に保管した文字列を入力します。

◆ ¥WAIT ◆

【機能】	プログラムを一定時間停止させます。 直前に発行したコマンドの事象を待つため、プログラムを指定した時間だけ (1~6540 秒) ウェイトさせます。
【書式】	¥WAIT ssss ssss = タイマ (0001~6540) 数字の前に「T」はつけません。
【使用例】	¥WAIT 10 表示されている ディスプレイの中から 10 秒間、「ABCDEFGF」という文字列を検索します。
【注意】	10 秒間、マクロの実行を待機します。

◆ ¥WINEXEC ◆

【機能】	指定したアプリケーションプログラムを、指定のウィンドウサイズで起動します。
【書式】	¥WINEXEC % program % = ウィンドウサイズの指定(1~4) 1 : 通常の大きさで表示 2 : 最大化にして表示 3 : 最小化にして表示し、起動したプログラムをアクティブ 4 : 最小化にして表示し、 をアクティブ program = 起動するアプリケーションプログラムをフルパスで指定
【使用例】	¥WINEXEC 1 C:¥WINDOWS¥NOTE.EXE 「メモ帳」を通常サイズで起動します。
【注意】	ウィンドウサイズが固定の場合や非 Windows アプリケーションの場合は、指定しても無効となります。

◆ ラベル名 : ◆

【機能】 ラベルには、英数カナ、記号、全角文字が使えます。文字数は、1 行に 128 文字まで指定できます。
「¥GOTO」 や 「¥IF」 の移動先になります。

【書式】 ラベル名 :

6 章. FALCONフレームのメニューについて

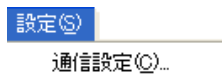
[メニューバー]

・ファイル項目



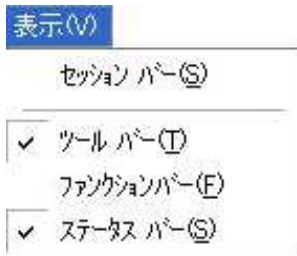
セッションの新規作成	セッションを新規に作成します
セッションの削除	現在開いているセッションを削除します
セッションを開く	他のセッションの設定がある場合、そのセッションを開きます
アプリケーションの終了	FALCON を終了します

・設定項目



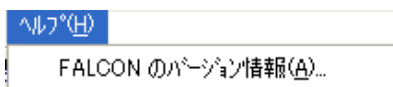
通信設定	通信設定をおこないます。
------	--------------

・表示項目



セッションバー	セッションバーを表示します。
ツールバー	ツールバーを表示します。
ファンクションバー	ファンクションバーを表示します。
ステータスバー	ステータスバーを表示します。

・ヘルプ項目



FALCON のバージョン情報	FALCON フレームのバージョン情報を表示します。
-----------------	----------------------------

7 章. FALCONフレームのツールバーについて

- ・セッションを開く



他のセッションの設定がある場合、そのセッションを開きます

- ・接続



現在の通信設定で接続をおこないます。

- ・切断



現在の通信を切断します。

- ・印刷



現在の画面情報をプリンターに出力します。

- ・コピー



選択した範囲をクリップボードにコピーします。

- ・貼付



クリップボードのテキストを貼付ます

- ・マクロの実行



マクロをファイルを選択し実行します。

- ・マクロの記録



マクロを記録します。

・ マクロの終了



マクロの実行を終了及びマクロ記録の保存を終了します

・ フォントの拡大



表示フォントを拡大します。

・ フォントの縮小



表示フォントを縮小します。

・ 次のウィンドウに切り替える



MDI 起動の場合のみ表示され、これを押すとセッションが切り替わります。

・ キーボード割り当ての表示



キーボードの割り当てを表示します。

8章. プロパティについて

8.1 3270プロダクト

セッションタイプ：CRT

画面を右クリックするとメニューが表示され、そのプロパティから詳細設定をおこなう事が可能です。

[一般]



キーボード種別	使用するキーボードの種類を選択します
エッジスタイル	ウィンドウの形状を設定します
ホスト・コード・ページ	使用するホストコードを設定します
トラックスタイル	範囲指定の際の枠線の形状を指定します
フォント	フォントを設定します
コピーオプション	コピー時の動作を設定します

[カラー]



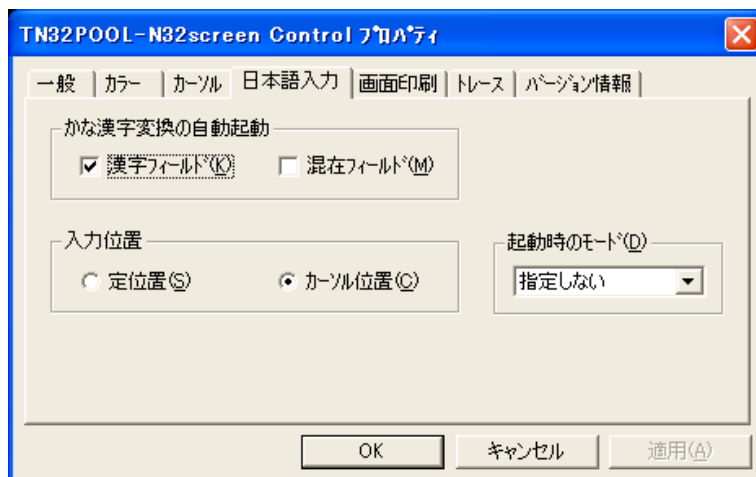
ここで画面の表示色を指定します。

[カーソル]



カーソルの形状	カーソルの形状を指定します
挿入時カーソルの形状	挿入時のカーソルの形状を指定します
カーソルの点滅	カーソルの点滅方法を指定します
カーソル位置の表示	カーソル位置の表示方法を指定します
ルーラー	ルーラーの表示/非表示を設定します

[日本語入力]



かな漢字変換の自動起動	かな漢字変換の自動起動の設定をおこないません
入力位置	全角入力時の入力文字列の表示位置を指定します
起動時のモード	起動時の文字モードを指定します

[画面印刷]



プリンター名	画面印刷時に出力するプリンター名です
--------	--------------------

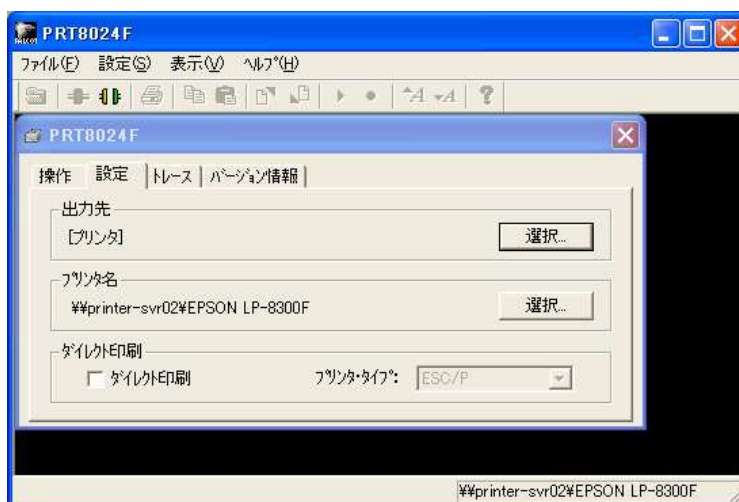
プロダクト : 3270/セッションタイプ : PRT

[操作]



PA1	PA1 キー情報を送信します
PA2	PA2 キー情報を送信します
中止	印刷を中止します
リセット	プリンターセッションをリセットします

[設定]



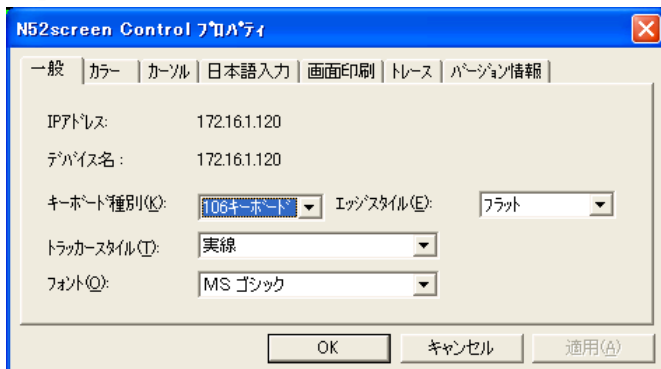
出力先	出力先を設定します
プリンター名	出力先プリンター名
ダイレクト印刷	ダイレクト印刷の可否及びプリンタータイプを指定します

8.2 5250 プロダクト

プロダクト : 5250/セッションタイプ : CRT

画面を右クリックするとメニューが表示され、そのプロパティから詳細設定をおこなう事が可能です。

[一般]



キーボード種別	使用するキーボードの種類を選択します
トラッカースタイル	範囲指定の際の枠線の形状を指定します
フォント	表示フォントを設定します
エッジスタイル	ウィンドウの形状を設定します

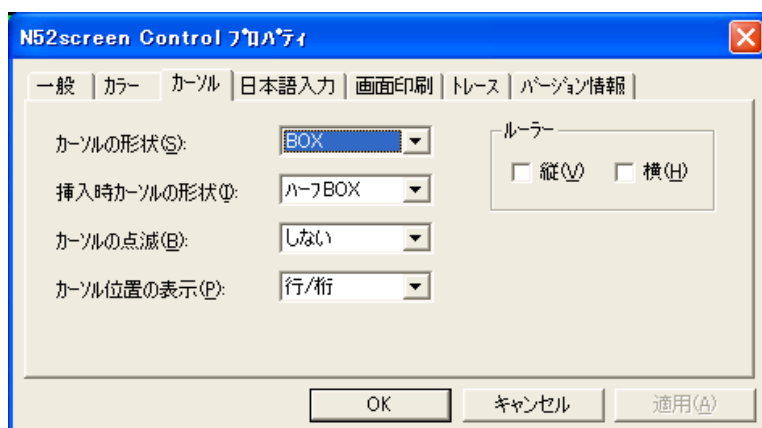
[カラー]



左側のペインで、ホスト側から送られてくる色を指定し、右側の選択画面のパレットから実際の端末画面上での対応（表示）する色を選択します。最後に適用ボタンをクリックしてください。(090410 追記)

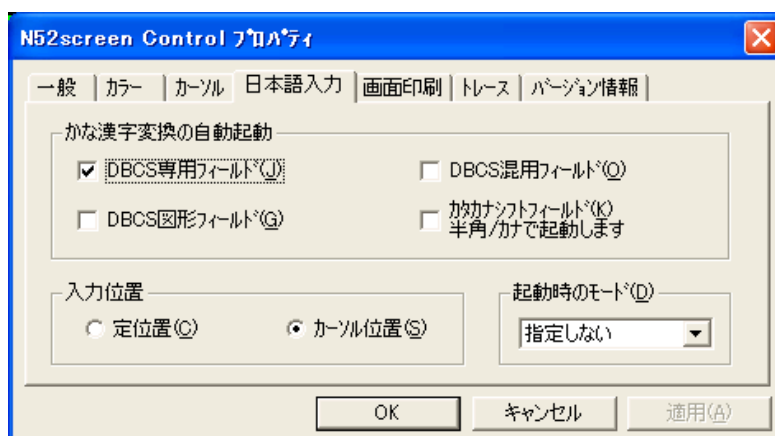
ここで画面の表示色を指定します。

[カーソル]



カーソルの形状	カーソルの形状を指定します
挿入時カーソルの形状	挿入時のカーソルの形状を指定します
カーソルの点滅	カーソルの点滅方法を指定します
カーソル位置の表示	カーソル位置の表示方法を指定します
ルーラー	ルーラーの表示/非表示を設定します

[日本語入力]



かな漢字変換の自動起動	かな漢字変換の自動起動の設定をおこないません
入力位置	全角入力時の入力文字列の表示位置を指定します
起動時のモード	起動時の文字モードを指定します

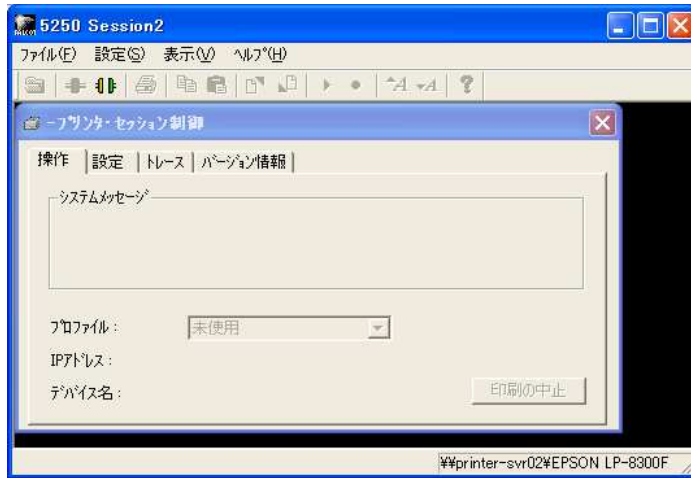
[画面印刷]



プリンター名	画面印刷時に出力するプリンター名です
印刷マージン設定	印刷時のマージンを指定します
印刷サイズ合せ	印刷サイズを用紙に合わせます
印刷サイズ	印刷の縮尺を設定します

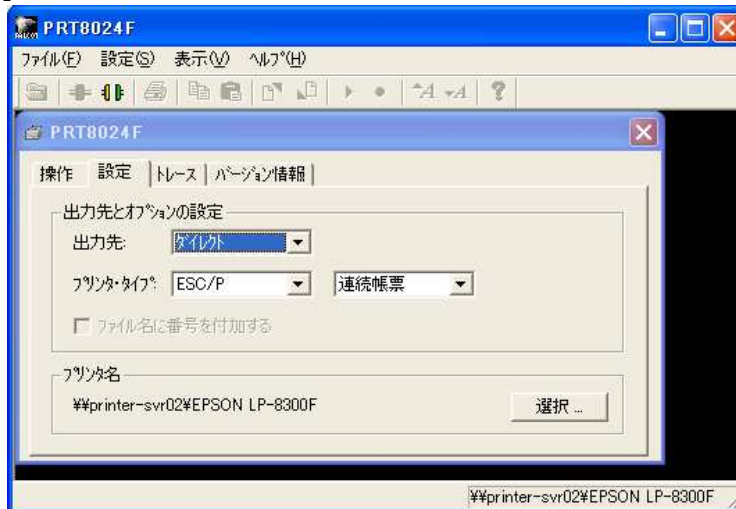
プロダクト : 5250/セッションタイプ : PRT

[操作]



印刷の中止	印刷を中止します
復旧の通知	出力先プリンターに問題があり停止した場合、復旧をホストに通知します

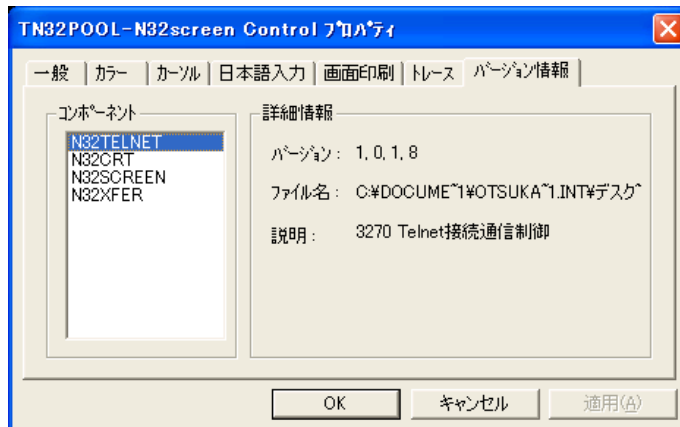
[設定]



出力先とオプションの設定	出力先を設定します
出力先	出力先を指定します
プリンタータイプ	ダイレクト印刷の場合、プリンタータイプを指定します
プリンタータイプ(右側)	印刷用紙のタイプを指定します
プリンター名	出力先プリンター名

8.3 プロダクト共通

[バージョン情報]



バージョン情報には、現在そのセッションで使用しているモジュールとバージョン。及びモジュールが存在している場所が表示されます。左側のリストでモジュールを選択する事により各モジュールのバージョンを調べる事ができます。

[トレース]



レベル	トレースの採取レベルです。トレース採取時は全てにチェックをつけます
バッファサイズ	トレースのバッファサイズです。長いデータを採取する場合には 9999 を設定します

9 章. 設定ファイルについて

9.1 Setup.Inf

Setup.Inf は 8 章で説明したプロパティの設定やその他詳細なプロパティを保持する設定ファイルです。このファイルはテキストエディタで直接編集でき、詳細な設定をおこなう事ができます。Setup.Inf ファイルは FALCON インストールフォルダにあります。

プロパティ名	説明
[Falcon-Frame]	フレームセクション
FrameType=MDI	フレームタイプ (MDI/SDI)

変更例 : 5250

[SESSION1]	セッション番号を記述します。(1 から 26 まで)
Product=5250	プロダクトを指定します。(3270/5250/6680/560)
SessionType=CRT	CRT または PRT
ConnectType=TELNET	通信手順を設定します。
Telnet-IPAddress=172.16.1.120	ホストの IP を設定してください。
Telnet-SessionType=Crt	Crt または Prt
Telnet-PortNumber=23	ホストに接続する TCP ポート番号
Telnet-TerminalType=IBM-5555-C01	ホストに接続するターミナルタイプ
Telnet-KeepAlive=1	ホストとの通信に KeepAlive を使用するかどうか 0:使用しない 1:使用する Keepalive の間隔は OS の設定に依存します。初期値で 2 時間。変更するには OS のレジストリーを変更してください。マイクロソフト社の URL をご参照下さい。 http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;402144#XSLTH3130121123120121120120
Crt-MsgAlarm=n (ホストからのメッセージ) Crt-Alarm=n (ホストからのエラー)	音に設定可能(5250 プロパティ) (n は 0~6 の数字) 0:一般の警告音 1:なし 2:標準ピープ音 3:メッセージ(情報) ※ 4:メッセージ(警告) ※ 5:システムエラー※ 6:メッセージ(問い合わせ) ※ ※これら値はコントロールパネルのサウンドとオーディオデバイスのプロパティ内サウンドタグで設定されている音が鳴ります。
Crt-ScreenSize=1	1:画面サイズ : 27×132
Crt-GaijiFileName=C:\HOSTCODE.F68	外字を使用する場合、外字コードとホストコードを紐付けするテーブルファイル (フルパス)
Crt-TraceSwitch=1	トレース機能 1:ON 0:OFF (デフォルト) (プリンターの場合は、Prt-TraceSwitch=1/ 通信層レベルの場合 Telnet-TraceSwitch=1)
Screen-LocalSave=1	終了時の保管 1:ON (デフォルト) 0:OFF (プリンターの場合は、Printer- LocalSave=1)

Screen-SaveWindowPos=1	終了時の画面位置保存 1:ON 0:OFF (デフォルト) (プリンターの場合は、Printer- SaveWindowPos=1)
Screen-SaveWindowPosiRefer=1	終了時設定プロパティの保存方法を指定します。 (「終了時の位置保管をおこなう」または「終了時の設定保管をおこなう」指定された場合のみ有効) 0:通常保存 1:LU 名毎に保存 2:ウィンドウ・タイトル毎に保存
Screen-AutoStartMacroName =C:\logon.mcr	自動実行マクロ マクロファイル (フルパス)
Screen-KeyCustString= RETURN=CTRL+ENTER, INSERT=CTRL+INS	キーボードカスタマイズ ([機能]=[割り当てるキー]の組み合わせ)
Mcr-Use=1	マクロ機能を使用する (マクロメニューの表示)
FunctionCust-Use=1	ファンクションバーカスタマイズ許可 1:ON 0:OFF(デフォルト) 1に設定するとセッション画面上で右クリックしたとき「カスタマイズ=>ファンクションバー」が有効になります。
HotspotCust-Use=1	ホットスポットカスタマイズ許可 1:ON 0:OFF(デフォルト) 1に設定するとセッション画面上で右クリックしたとき「カスタマイズ=>ホットスポット」が有効になります。
KeyCust-Use=1	キーボードカスタマイズ許可 1:ON 0:OFF(デフォルト) 1に設定するとセッション画面上で右クリックしたとき「カスタマイズ=>キーボード」が有効になります。
ToolBarCust-Use=1	ツールバーカスタマイズ許可 1:ON 0:OFF(デフォルト) 1に設定するとセッション画面上で右クリックしたとき「カスタマイズ=>ツールバー」が有効になります。
Screen-FalconKey=1	テンキーの四則演算キー (/ * + -) を刻印どおりにする設定 この設定をおこなった場合、FM,DUP,Field+,Field-の割り当ては以下のように変更されます。(すべてテンキーの/*-+です) Ctrl + / Ctrl + * Ctrl + + Ctrl + -

変更例 : 3270

[SESSION1]	セッション番号を記述します。(1 から 26 まで)
Product=3270	プロダクトを指定します。(3270/5250/6680/560)
SessionType=CRT	CRT または PRT
ConnectType=TELNET	通信手順を設定します。
Telnet-IPAddress=172.16.1.63	ホストの IP を設定してください。
Telnet-SessionType=Crt	Crt または Prt
Telnet-PortNumber=23	ホストに接続する TCP ポート番号
Telnet-TerminalType=IBM-3278-2-E	ホストに接続するターミナルタイプ
Telnet-WSType=etc(RFC1647)	ホストに接続する WS タイプ "TCP/IP(MVS,VM)" "IBM2216" "OCS I" "OCS II" "7500 CIP" "MEMOREX1174" "SURE TNServer" "SNA Server" "PATHWORKS", "GATE/XT", "etc(RFC1646)", "etc(RFC1647)"
Telnet-LuName=	ホストに接続する LU 名 (省略可)

9.2 FalCust.Inf

FalCust.Inf はメニューの表示を制御するための設定ファイルです。
このファイルはテキストエディタで直接編集でき、メニュー表示に関連する設定をおこなう事ができます。FalCust.Inf ファイルは FALCON インストールフォルダにあります。

; メニュー Disable/Enabel 制御 ファイル
; 0=Disable or 1=Enable (初期値 1) の値が有効です。

[ファイル]
セッションの新規作成=1
セッションの削除=1
セッション開く=1
閉じる=1
印刷=1
アプリケーションの終了=1

[編集]
コピー=1
貼り付け=1
すべて選択=1

[マクロ]
再生=1
終了=1
記録開始=1

[設定]
通信設定=1

[表示]
セッションバー=1
ツールバー=1
ファンクションバー=1
ステータスバー=1

[ウィンドウ]
重ねて表示=1
並べて表示=1
アイコンの整列=1

[ヘルプ]
バージョン情報=1

[ツールバー]
セッションを開く=1
接続=1
切断=1
印刷=1
コピー=1
貼り付け=1
ファイル送信=1
ファイル受信=1
マクロ再生=1
マクロ記録=1
フォントサイズ拡大=1
フォントサイズ縮小=1
次ページ=1
重ねて表示=1
並べて表示=1
キーボードヘルプ=1

[キーボード]
次に進む=CTRL+A
前に戻る=SHIFT+CTRL+A

10 章.ユーザーへの展開

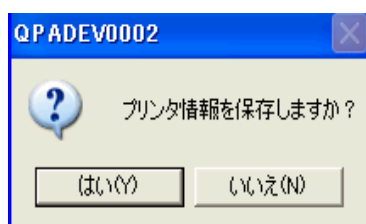
キーボード設定などのカスタマイズ情報の設定は、Administrator でログインし設定します。
その設定をユーザーでも使用できるようにするために、設定ファイルをコピーします。
エクスプローラを開き、

c:\Document and Settings\Administrator\Application Data\InterCom\Falcon.net\001\配下にある全ての ini ファイルを c:\Document and Settings\User\Application Data\InterCom\Falcon.net\001\にコピーします。

このとき c:\Document and Settings>All User\Application Data\...にコピーしても設定は有効になりません。複数ユーザーで使用する場合はユーザー毎にコピーする必要があります。

プリンターセッション設定時の留意点について

出力先プリンターは初期値で OS のプリンターで設定されている「通常使うプリンター」が最初表示されます。「通常使うプリンター」以外を設定すると、セッションを閉じるときに、次のダイアログが表示され、ファイルの保存先を聞かれます。



このとき、展開するユーザーにも同じプリンター設定を使用する場合は、該当のユーザーが書き込み権限を持つフォルダーを指定してください。通常ユーザー権限(User)で書き込み権限を持つフォルダーは、c:\Document and Settings\User\配下になります。

そのプリンター情報ファイルのアドレスは、

c:\Document and Settings\Administrator\Application Data\InterCom\Falcon.net\001\nxxprinter.ini に保存されますので、プリンターを変更するたびに nxxprinter.ini をユーザー毎のフォルダーにコピーする必要があります。

ファイル保存のタイミング

SecureTerminal シリーズをご使用の場合は、ファイル保存は Administrator 権限を持つユーザーがシャットダウンするタイミングでおこなわれます。

設定ファイルのパスについて

XPE、WES2009 版と WES7, Win10 版では設定ファイルのパスが異なります。

設定ファイルのパスは適宜読み替えてください。

XPE、WES2009 版

c:\Document and Settings\[ユーザーアカウント]\Application Data\InterCom\Falcon.net\001

WES7 版、Win10 版

c:\Users\[ユーザーアカウント]\AppData\Roaming\InterCom\Falcon.net\001

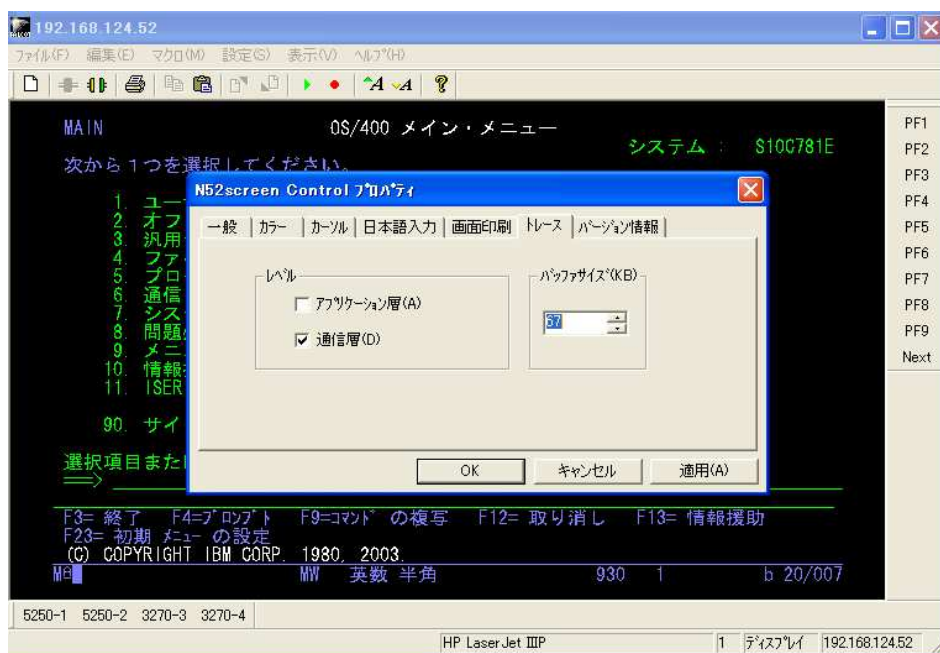
11 章. トレースの採取方法

トレースを採取する場合、WindowsにAdministratorでログインし、FALCONのセッションをトレース採取状態にしておきます。（[8.3 プロダクト共通](#) をご参照ください）
デスクトップ上にある FALCON トレースアイコンを Internet Explorer で起動します。

1) ALCON for APTi 上でトレース機能をオンにします。

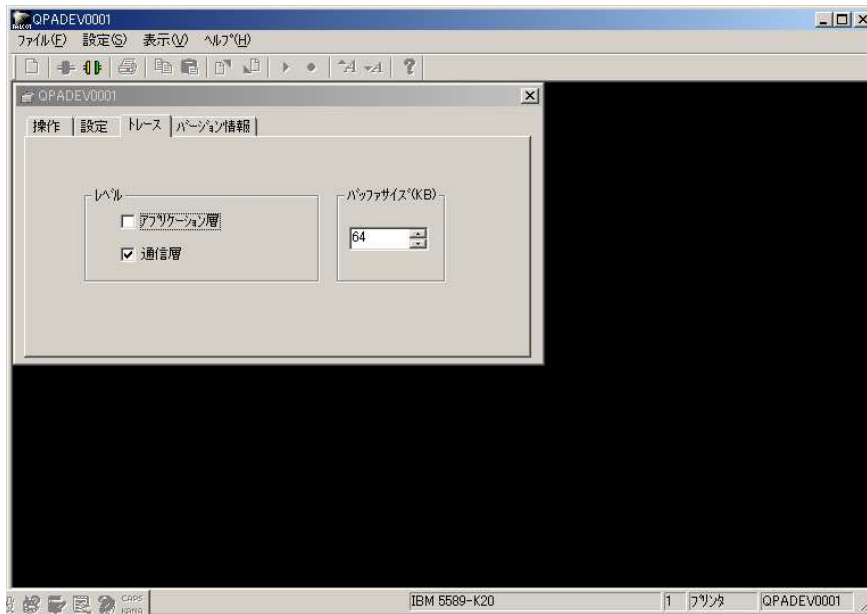
ディスプレイセッションの場合

- ・セッション画面上で右クリックし「プロパティ」を開いてください
- ・トレースタグを選択し「通信層」にチェックをしてください
- ・データサイズが大きい場合はバッファサイズ（9999）を変更してください。
- ・「適用(A)」ボタンをクリックしてください



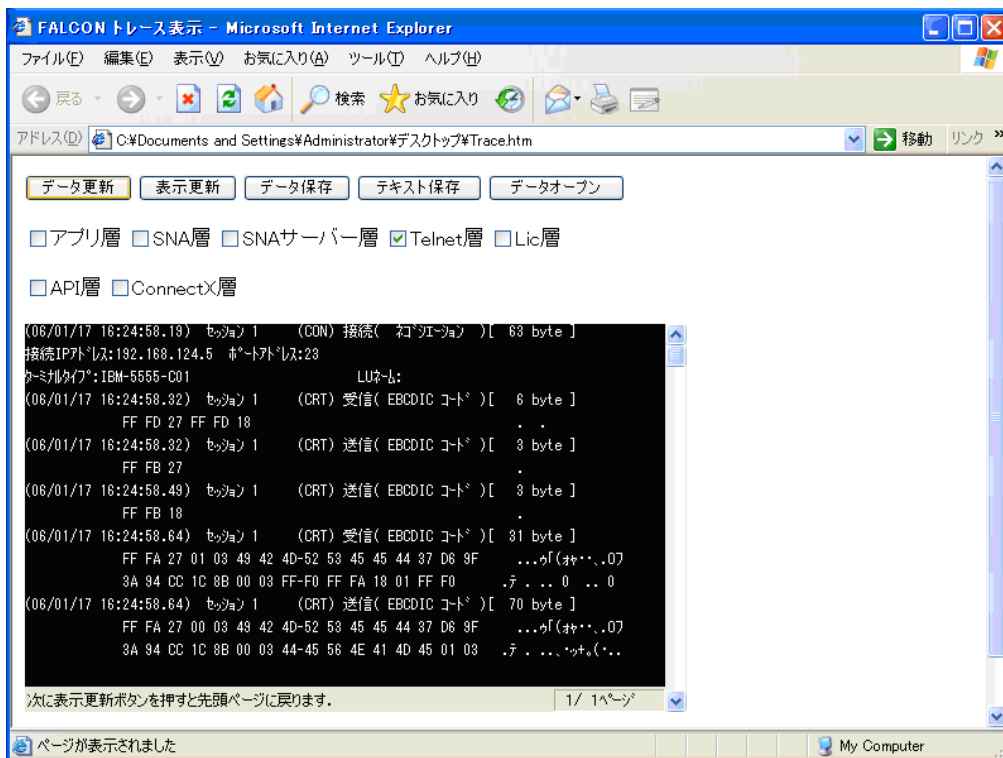
プリンターセッションの場合

- ・ トレースタグを選択し「通信層」にチェックをしてください
- ・ データサイズが大きい場合はバッファサイズ（9999）を変更してください。

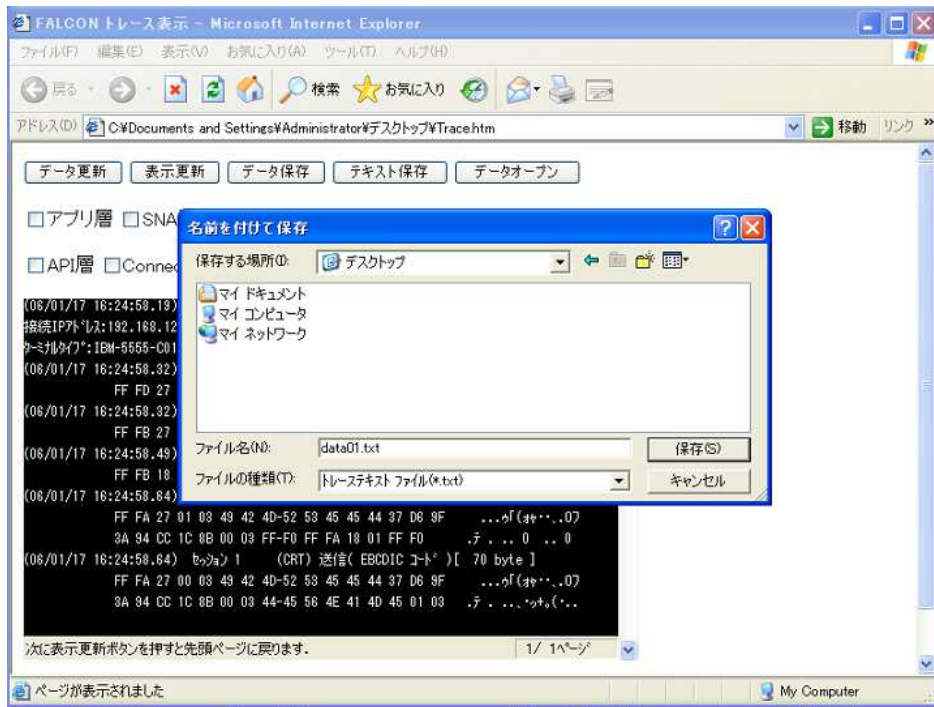


これらの設定は FALCON for APTi の再起動後に有効となります。

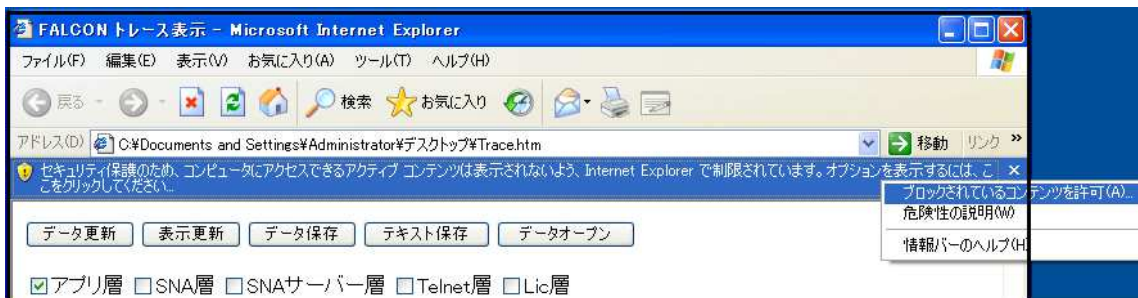
- 2) FALCON for APTi を再起動し、ホストからデータを送ってください
- 3) デスクトップ上にある FALCON トレースアイコンを起動しデータを取得します
 - ・ 「Telnet 層」にチェックをしてください
 - ・ 「データ更新」 ボタンをクリックしてください



- ・ 「テキスト保存」 ボタンをクリックし、保存したファイルに適切な名前をつけてください



注) セキュリティ保護のためのバーが表示されていたら、クリックし「ブロックされているコンテンツの許可」をしてください。



- 4) 保存したテキストファイルをフラッシュメモリーなどへコピーしてからご提供ください。
- 5) FALCON for APTi 上でトレース機能をオフにしてください。
 なお、データの取得が終了したら 1) の手順をご参照いただき、トレースのチェックをはずしてください。チェックをつけたままの場合には、常にメモリーがその分消費されます。

補足：

トレースデータは、指定されたバッファサイズに達すると、古いデータから順に上書きされます。また、バッファは電源を切るまでクリヤされることはありません。

Appendix 1 (キーマップ一覧)

5250

注意：以下のキーマップ一覧表中の「IBM5250 キーボード」の欄は各機能の参照用です。SecureTerminalに接続するキーボードの設定は、「101/106 キーボード」の欄を参照してください。

5250 モード固有キー

	機能	機能説明	IBM5250 キーボード	101/106 キーボード
1	Attn	現在の表示装置の活動を中断し、登録済みの新しい機能に制御を移します	Attn	ESC
2	Dup	複写可能フィールドにおいてこのキーを入力すると、そのフィールドを"*"で埋めます。実行キーを入力すると前のフィールドの内容をこのフィールドに複写します。	Dup	*
3	実行	入力されたデータをホストに送信します。	実行	右の Ctrl または Enter (テンキー部)
4	取消	挿入モード、システム要求または、エラーによってロックされたキーボードを解除します。	取消	左の Ctrl
5	Erase EOF	数モードでこのキーを押すとカーソルの現在位置からそのフィールドの終わりまでブランクを挿入します。	↑+改行 または EraseEOF	End
6	ErInp	変更したすべての入力フィールドのデータを消去し、カーソル位置をホーム位置に移動します。	前面キー + ErInp	Shift + End
7	FieldExit	カーソル位置を現在位置からその入力フィールドの最終桁までブランクを挿入して、次に移動します。右寄せフィールドにおいては、カーソル位置の左にあるデータが右に移動します。	改行	Enter
8	Field +	Field Exit と同じ機能を持っています。	↓ または + (テンキー部)	+ (テンキー部)
9	Field-	符合つきフィールドの最後に "-" を入れます。数字フィールド以外でこのキーを入力するとエラーになります。	- (テンキー部)	- (テンキー部)
10	Help	ホストにヘルプメッセージを要求します。	UF1	Alt + F1
11	ホスト印刷	現在表示されている画面をホスト経由で印刷します。	ページ印刷	Alt + Pause
12	SO/SI 表示	SO/SI 文字を表示します。	UF3	Crt + F1
13	SO/SI 挿入	択一・混用フィールドに感じを入力する場合に使用します。	単語登録	Ctrl + F8

14	SpaceEOF	カーソル位置から r フィールドの終わりまでのすべての文字を空白に置き換えます。	該当キーなし	未定義
15	PageDown	次のページの内容を表示します。	該当キーなし	未定義
16	PageUp	前ページの内容を表示します。	該当キーなし	未定義
17	RollDown	次のページの内容を表示します。	前ページ または PA2	PageUp
18	RollUp	前ページの内容を表示します。	次ページ または PA1	PageDown
19	SysRq	処理中の対話式ジョブを中断します。	前面キー + SysRq	Shift + Esc
20	Test	サイン・オン画面においてこのキーを使用すると、ホストにオンラインテスト要求を送信します。	前面キー + CrSell	Alt + F12
21	FM	複写可能フィールドにおいて、フィールドマーク記号を入力します。	FM (テンキー部)	/ (テンキー部)

PA キー、PF キー

	機能	機能説明	IBM5250 キーボード	101/106 キーボード
1	PA1	設定されている信号ホストのアプリケーションに送信します。	該当キーなし	未定義
2	PA2	設定されている信号ホストのアプリケーションに送信します。	該当キーなし	未定義
3	PA3	設定されている信号ホストのアプリケーションに送信します。	該当キーなし	未定義
4	PF1～ PF12	適用業務プログラムによって各キーに割り当てられた指令機能を実行します。	F1 ~ F12	F1 ~ F12
5	PF13～ PF24	適用業務プログラムによって各キーに割り当てられた指令機能を実行します。	前面 + F1 ~ 前面 + F12	SHIFT + F1 ~ SHIFT + F12

編集キー

	機能	機能説明	IBM5250 キーボード	101/106 キーボード
1	挿入	入力モードに切り替えます。	挿入	Insert または Ins (テンキー部)
2	削除	カーソル上の文字を削除します。	削除	Delete または Del (テンキー部)

3	BackSpace	カーソルを1文字分左へ移動し、カーソル位置の文字を削除します。	該当キーなし	未定義
4	BackTab	カーソル位置を現在の入力フィールドの先頭に移動します。既に入力フィールドの先頭に位置している場合は前の入力フィールドの先頭に移動します。	 + 	Shift + Tab
5	BackTabWord	カーソル位置を文字列の最初の文字位置に移動します。	該当キーなし	未定義
6	キャラクタ 後退	カーソル位置を1つ前の位置に移動します。	後退	BackSpace
7	キャラクタ 前進	カーソル位置を1つ先の位置に移動します。	 + 後退	Shift + BackSpace
8	高速カーソル↑	カーソル位置を上を3行分移動します。	 + 	Shift + 
9	高速カーソル↓	カーソル位置を下を3行分移動します。	 + 	Shift + 
10	高速カーソル→	カーソル位置を右を3桁分移動します。	 + 	Shift + 
11	高速カーソル←	カーソル位置を左を3桁分移動します。	 + 	Shift + 
12	Home	カーソル位置をホーム位置(画面における最初の入力フィールドの先頭)に移動します。		Home
13	改行	カーソル位置を現在位置から次の行の入力位置に移動します。	Esc	Shift + Enter
14	Tab	カーソル位置を次の入力フィールドの先頭に移動します。		Tab
15	TabWord	カーソル位置を次の文字列の最初の文字位置に移動します。	該当キーなし	未定義
16	カーソル 上移動↑	カーソル位置を上を1行分移動します。		
17	カーソル 下移動↓	カーソル位置を下を1行分移動します。		
18	カーソル 右移動→	カーソル位置を右を1桁分移動します。		
19	カーソル 左移動←	カーソル位置を左を1桁分移動します。		

固有キー

	機能	機能説明	IBM5250 キーボード	101/106 キーボード
1	カラーモード 切替	カラーモードと単色モードを切り替えます。	割込み	Ctrl + F2
2	カーソル切替	カーソル形式を切り替えます。	前面キー + AltCsr	Alt + F11

3	文字モード切替	カタカナ文字セットと英数小文字セットを切り替えます。	Ctrl + F12	Ctrl + F12
4	ローカル印刷	画面をハードコピーします。	前面キー + ページ印刷	Shift + Pause
5	編集 - 複製	選択された範囲内の文字をクリップボードへ複製します。	該当キーなし	未定義
6	編集 - 貼付	クリップボードからカーソル位置に文字を貼り付けます。	該当キーなし	未定義
7	編集 - 切取	選択された範囲内の文字を切り取り、クリップボードへ複製します。	該当キーなし	未定義
8	範囲指定 →	選択範囲の矩形を右方向へ拡大・縮小します。	該当キーなし	未定義
9	範囲指定 ←	選択範囲の矩形を左方向へ拡大・縮小します。	該当キーなし	未定義
10	範囲指定 ↑	選択範囲の矩形を上方向へ拡大・縮小します。	該当キーなし	未定義
11	範囲指定 ↓	選択範囲の矩形を下方向へ拡大・縮小します。	該当キーなし	未定義
12	範囲移動 →	選択範囲の矩形を右方向へ移動します。	該当キーなし	未定義
13	範囲移動 ←	選択範囲の矩形を左方向へ移動します。	該当キーなし	未定義
14	範囲移動 ↑	選択範囲の矩形を上方向へ移動します。	該当キーなし	未定義
15	範囲移動 ↓	選択範囲の矩形を下方向へ移動します。	該当キーなし	未定義

3270

注意: 以下のキーマップ一覧表中の「IBM3270 キーボード」の欄は、各機能の参照用です。SecureTerminal に接続するキーボードの設定は、「101/106 キーボード、5576-002/003 キーボード」の欄を参照してください。

3270 モード固有キー

	機能	機能説明	IBM3270 キーボード	101/106 キーボード 5576-002/003 キーボード
1	画面消去	画面全体の消去	<u>C</u> lear	<u>P</u> ause <u>C</u> trl + <u>⌘</u> - <u>⌘</u>
2	初期化	画面の初期化	<u>S</u> ysRq	<u>S</u> hift + <u>E</u> sc
3	カーソル選択	カーソル選択 フィールドの探知	<u>C</u> rSel	<u>A</u> lt + <u>F</u> 9 <u>A</u> lt + <u>C</u> trl + <u>F</u> 9
4	フィールド消去	カーソル位置からフィールドの末尾まで を消去する	<u>E</u> rase EOF	<u>E</u> nd
5	無保護フィールド 消去	全無保護フィールド内の消去	<u>E</u> rInp	<u>S</u> hift + <u>E</u> nd
6	アテンション	ホストにアテンション信号を通知する	<u>A</u> ttn	<u>E</u> sc
7	PF1~PF12	プログラムファンクションキーの通知	<u>F</u> 1 ~ <u>F</u> 12	<u>F</u> 1 ~ <u>F</u> 12
8	PF13~PF24		<u>P</u> F13~ <u>P</u> F24	<u>S</u> hift + <u>F</u> 1 ~ <u>S</u> hift + <u>F</u> 12
9	入力禁止解除	印刷中の入力禁止状態解除	<u>D</u> vCnc	<u>S</u> hift + <u>C</u> trl
10	DUP	画面に Dup コードを付ける	<u>D</u> up	<u>S</u> hift + <u>I</u> nsert
11	FM	画面に FM コードを付ける	<u>F</u> M	<u>S</u> hift + <u>H</u> ome
12	SO/SI 表示	SO/SI 文字と補足空白文字を表示する	<u>S</u> O/ <u>S</u> I	<u>C</u> trl + <u>F</u> 1
13	カラー切替	基本カラーモードの切り替え	-	未定義※
14	文字モード 切替	基本文字モードと代替文字モードの切り 替え	-	<u>C</u> trl + <u>F</u> 3
15	カーソル位置	カーソル位置の表示	-	未定義※
16	グラフィック カーソル	グラフィックカーソルの表示	-	未定義※

※ 未定義の機能は、キーボードカスタマイズで任意のキーに割り付けることが可能です。

3270 モード編集キー

	機能	機能説明	IBM3270 キーボード	101/106 キーボード 5576-002/003 キーボード
1	挿入モード	編集モードを挿入にする	挿入	Insert テンキーの Ins Shift + テンキーの 0
2	文字削除	文字を 1 文字削除する	削除	Delete Shift + Delete テンキーの Del Shift + テンキーの 0
3	ルーラー表示	ルーラーの表示・非表示	Rule	Ctrl + Home

101/106、5576-002/003 キーボードでの、テンキー+数字は、NUM LOCK 状態での割り当てになります。

カーソル移動キー

	機能	機能説明	IBM3270 キーボード	101/106 キーボード 5576-002/003 キーボード
1	カーソル移動 (ピクセル)	カーソルを文字・ピクセル単位に移動	→	→ テンキーの → Shift + テンキーの 6
			←	← テンキーの ← Shift + テンキーの 4
			↑	↑ テンキーの ↑
			↓	↓ テンキーの ↓ Shift + テンキーの 2
			後退	Backspace Shift + Backspace
2	カーソル移動 (フィールド)	カーソルをフィールド単位に移動		Tab Shift + テンキーの +
				Shift + Tab

3	カーソル移動 (次行)	カーソルを次行以降の最初のフィールドに移動	改行	Enter Shift + Enter
4	カーソル移動 (先頭)	カーソルを画面の最初のフィールドに移動		Home テンキーの Home Shift + 7

シフトキー

	機能	機能説明	IBM3270 キー	101/106 キーボード 5576-002/003 キーボード
1	入力文字切替	入力モードの英数／カタカナ切り替え	英数、カナ	
2	大文字入力	入力モードの大文字英字	CAPS	
3	組み合わせ入力	他のキーとの組み合わせ	前面、 ↑, Ctrl	

システムキー

	機能	機能説明	IBM3270 キーボード	101/106 キーボード 5576-002/003 キーボード
1	入力禁止解除	入力禁止状態の解除	取消	左 Ctrl Shift + 左 Ctrl
2	画面印刷	画面印刷	グラフィック印刷	未定義

クリップボード関連キー

	機能	機能説明	IBM3270 キーボード	101/106 キーボード 5576-002/003 キーボード
1	複写	複写	Edit-copy	左 Ctrl + Insert
2	貼り付け	貼り付け	Edit-paste	左 Ctrl + Shift + Insert
3	切り取り	切り取り	Edit-cut	Shift + Delete
4	範囲指定	範囲指定 (右)	Mark right	Shift + →
5	範囲指定	範囲指定 (左)	Mark left	Shift + ←

6	範囲指定	範囲指定 (上)	Mark up	Shift + ↑
7	範囲指定	範囲指定 (下)	Mark down	Shift + ↓
8	移動指定	移動指定 (右)	Move right	Ctrl + →
9	移動指定	移動指定 (左)	Move left	Ctrl + ←
10	移動指定	移動指定 (上)	Moive up	Ctrl + ↑
11	移動指定	移動指定 (下)	Move down	Ctrl + ↓

Secure Terminal

ホスト・エミュレーター ***FALCON for APTi***

ユーザーズ・ガイド V2.1.8

JB アドバンスド・テクノロジー株式会社

Secure Terminal についてのお問い合わせは下記の
窓口にご相談ください。

お客様相談センター

■電話相談窓口

受付時間 08:45-19:00（日・祝日・12/30-1/4 を除く）

0120-28-3933

■FAX相談窓口

受付時間 24時間

0120-28-3977
